



平成28年3月7日

平成27年度公立高等学校における 教育課程の編成・実施状況調査の結果について

文部科学省では、高等学校教育に関する政策の企画、立案等のために、標記調査を実施しています（前回調査は平成25年度）。このたび、その結果を取りまとめましたので、公表します。

1. 調査内容

(1) 調査対象

全ての公立高等学校、中等教育学校後期課程の平成27年度計画について
(一部平成26年度実績を含む。)

※ 現行学習指導要領に基づく教育課程は、平成25年度入学者から全面实施。
なお、学習指導要領の総則（各教科等に共通する事項）については、
平成22年度から実施。

※ （別紙）科目の履修状況については抽出調査で実施。

(2) 調査手法

都道府県・指定都市教育委員会を通して調査を実施

(3) 調査期間

平成27年9月29日～平成27年11月6日

2. 調査結果の概要

次ページ以降のとおり

<担当> 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教育課程企画室 小野、谷原、花崎
03-5253-4111（代表）（内線2369）

調査結果の概要

○ 卒業に必要な修得単位数、履修単位数の状況（本体P 2、3）

※（ ）内は前回の調査結果

平成27年度入学者に卒業までに修得させる単位数について、学習指導要領に定める最低基準である74単位を超えて設定している学科の割合は、

- ・ 全日制課程の普通科において 75.5%（75.9%）
- ・ 同専門学科において 80.0%（79.7%）
- ・ 同総合学科において 42.6%（44.1%）

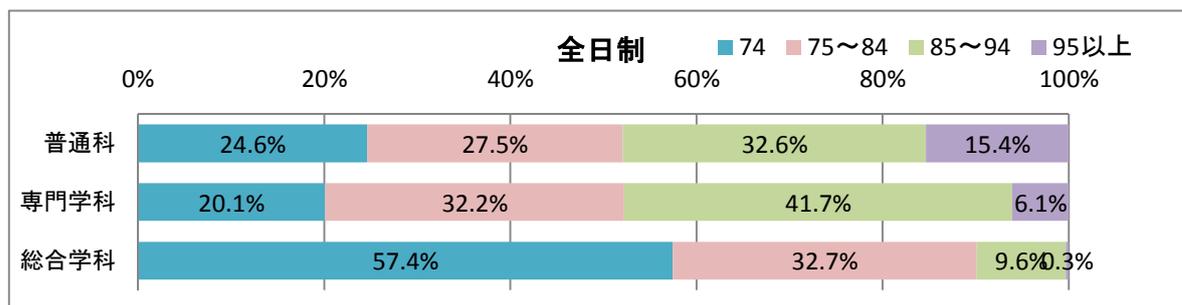
である。

また、平成25年度入学者に卒業までに履修させる単位数について、学習指導要領に定める最低基準である74単位を超えて設定している学科の割合は、

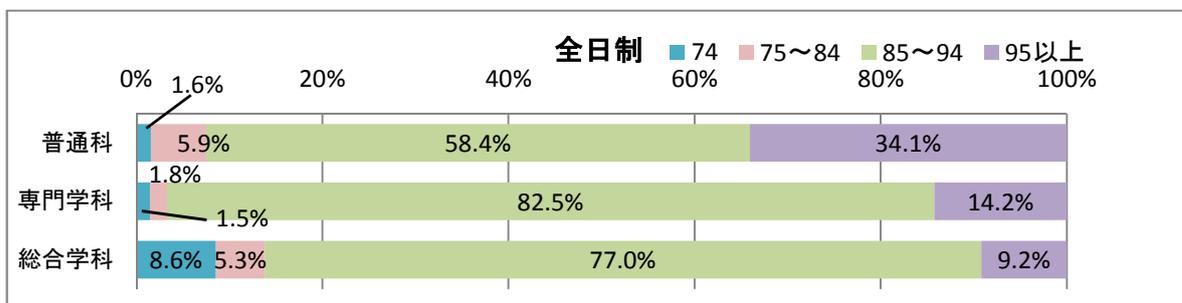
- ・ 全日制課程の普通科において 98.4%（98.6%）
- ・ 同専門学科において 98.5%（99.3%）
- ・ 同総合学科において 91.5%（93.9%）

である。

（卒業に必要な修得単位数）



（卒業に必要な履修単位数）



○ 週当たりの授業時数の状況（P4）

平成27年度入学者の今年度の週当たりの授業時数については、30～32単位時間と設定している学科の割合が最も高く、

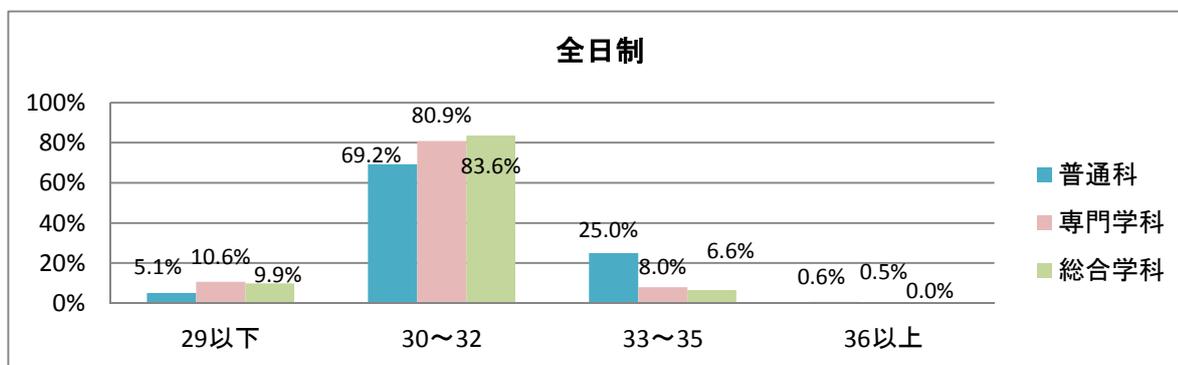
- ・ 全日制課程の普通科において 69.2%（69.2%）
- ・ 同専門学科において 80.9%（82.4%）
- ・ 同総合学科において 83.6%（87.5%）

である。

なお、週当たりの授業時数が33時間以上の学科の割合は、

- ・ 全日制課程の普通科において 25.6%（26.1%）
- ・ 同専門学科において 8.5%（9.2%）
- ・ 同総合学科において 6.6%（5.4%）

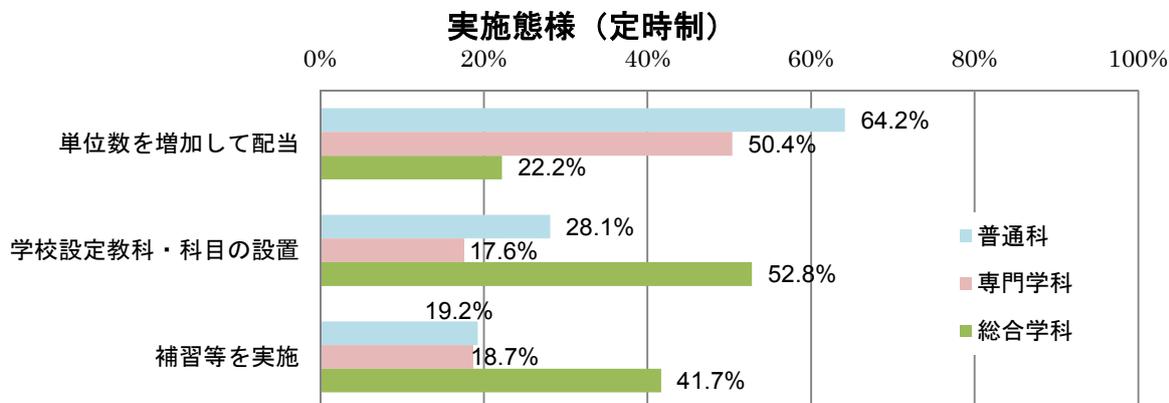
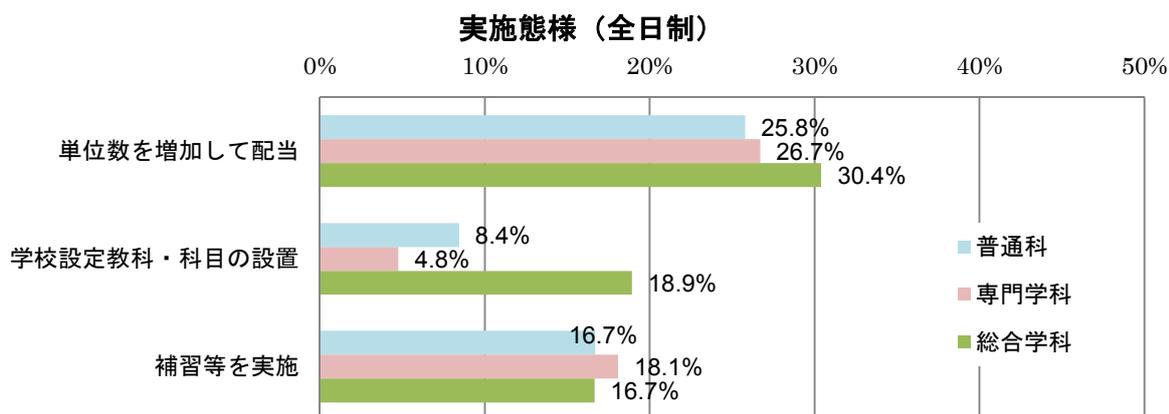
である。



○ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導の実施状況（本体P8）

平成26年度における義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導の実施状況について、①必履修教科・科目の「標準単位数を超えて増加して配当」することによる指導と、②「学校設定教科・科目を設置」することによる指導、③「放課後や長期休暇、土曜日等の補習」による指導の3点について調査したところ、①の方法により実施する学校の割合が比較的高かった。

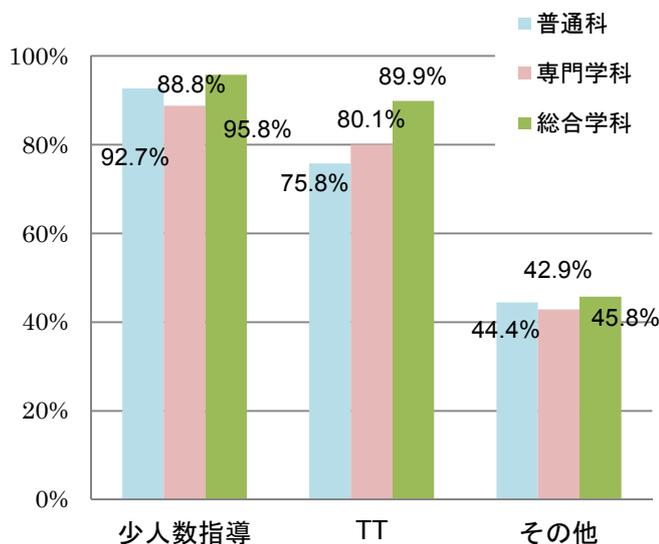
<義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導の実施状況>



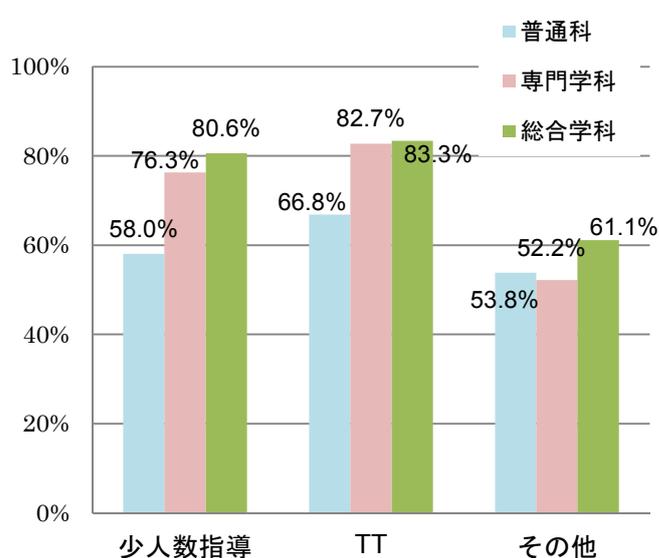
○ 個に応じた指導の実施状況（本体P13～15）

平成27年度の、個に応じた指導（少人数指導、TT、その他）の実施状況については下記グラフのとおり、多くの高等学校で少人数指導またはTTが実施されている。

個に応じた指導の実施方法（全日制）



個に応じた指導の実施方法（定時制）



（少人数指導）

例えば、①2学級を3つの学習集団に分けるなど学級の枠を超えて学習集団を編成し、それぞれの学習集団を異なる教師が指導する場合や、②1学級を2つ以上の学習集団に分け、それぞれを異なる教師が指導する場合など、通常の学級集団よりも小さい学習集団を編成して指導を行う場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

（TT）

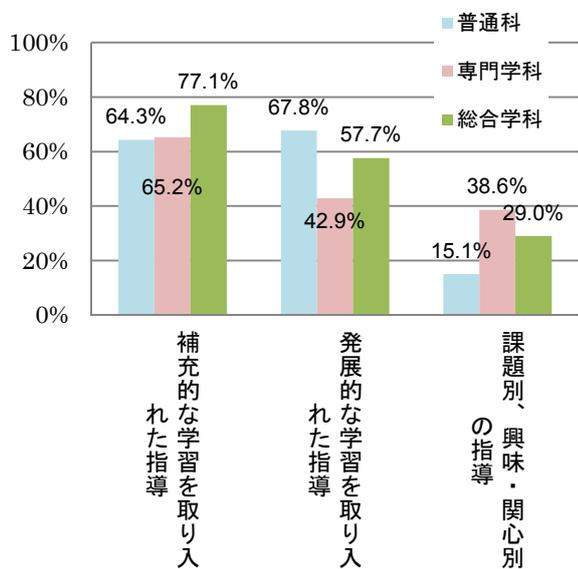
例えば、①1学級を単位とし、学習集団を分けずに複数の教師が協力して指導する場合や、②1学級内又は学級単位を超えて学習集団を編成し、全部または一部の学習集団に対して複数の教師が協力して指導する場合など、1学習集団に対し2人以上の教師が協力して指導する場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

（その他）

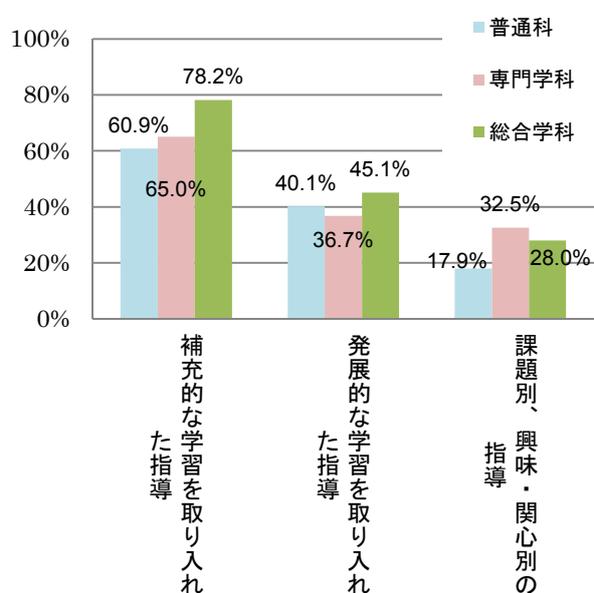
例えば、1人の教師が、個人や学習集団によって異なる課題等を与えるなどの指導を行う場合など、少人数指導又はTT以外の方法で個に応じた指導を実施する場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

○ また、少人数指導またはT Tの実施内容は下記グラフの通りで、補充的な学習を取り入れた指導を行っている高等学校の割合が比較的高い。

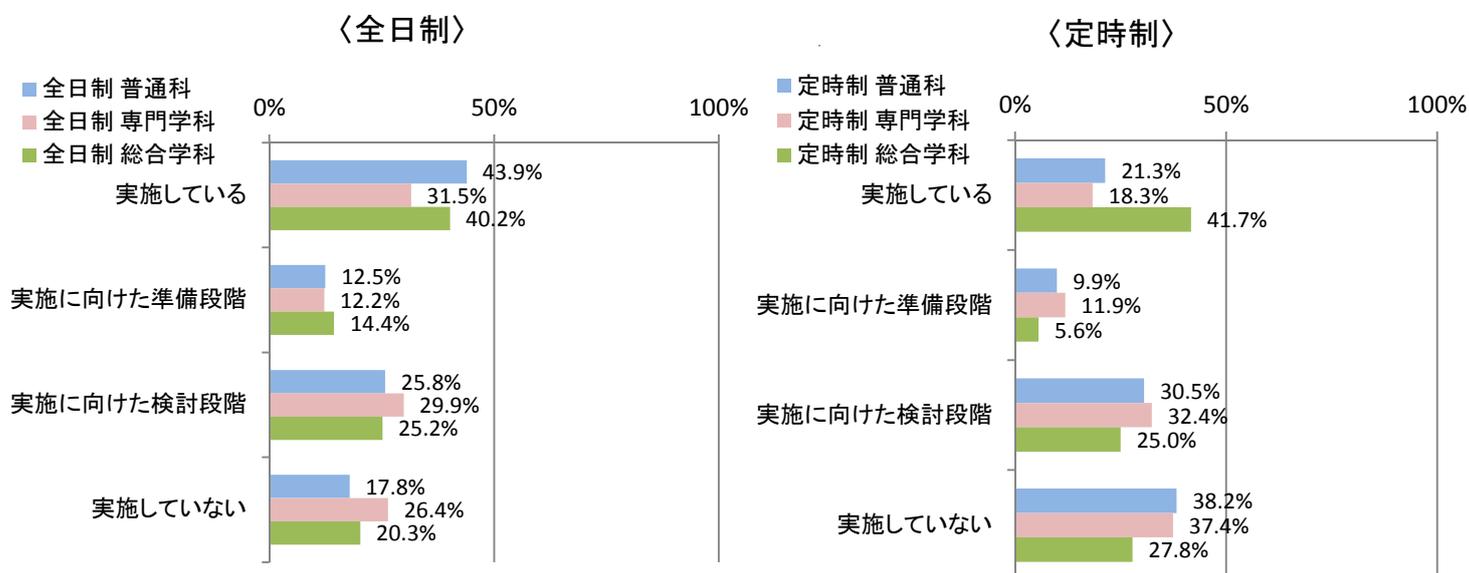
少人数指導の実施内容（全日制）



T Tの実施内容（全日制）



○ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた取組の実施状況（本体P 12）
 アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた授業研究、校内研修等の取り組み状況については、下記グラフのとおり。

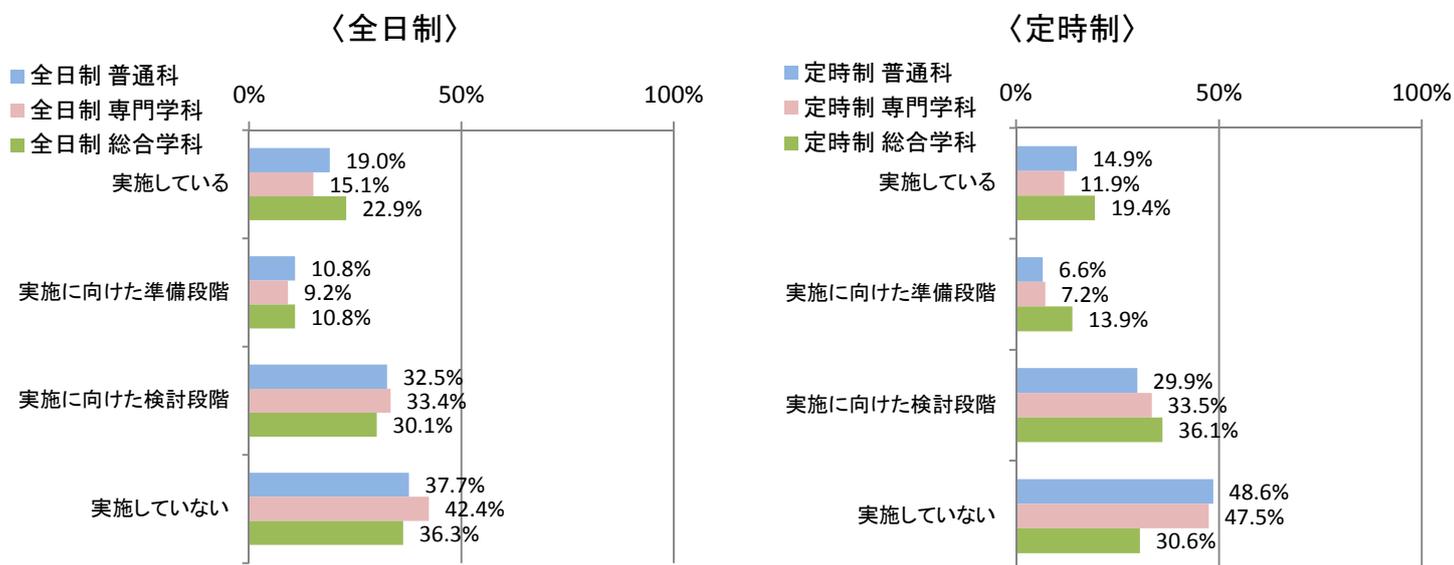


※ アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善：3つの要素

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

○ カリキュラム・マネジメントの確立に向けた取組の実施状況（本体P17）

カリキュラム・マネジメントの確立に向けた授業研究、校内研修等の取り組み状況については、下記グラフのとおり。



※ カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 教育内容を、一つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え、効果的に編成する。
- ② 子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善のサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、指導体制や ICT 活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。